



# 企業内における Microsoft OCS/Lync とのドメイン間フェデレーションの設定



(注)

フェデレーションおよびサブドメインに関する詳細については、[フェデレーションとサブドメイン](#)を参照してください。ただし、OCS ドメインと IM and Presence ドメインが異なれば、企業内でのフェデレーションを設定することができます。ドメインが異なればそれらは同等に適用することができるため、サブドメインを使用する必要はありません。

- [エンタープライズへの Microsoft OCS ドメインの追加, 1 ページ](#)
- [Microsoft OCS ドメインとのフェデレーションを行うための TCP によるスタティック ルートの設定, 2 ページ](#)
- [Microsoft OCS ドメインとのフェデレーションを行うための TLS によるスタティック ルート設定, 6 ページ](#)
- [エンタープライズ内で Microsoft Lync とのドメイン間フェデレーションを行うためのスタティック ルート設定, 9 ページ](#)

## エンタープライズへの Microsoft OCS ドメインの追加

フェデレーテッドドメインエントリを設定すると、IM and Presence は自動的にフェデレーテッドドメインエントリに着信 ACL を追加します。この着信 ACL がフェデレーテッドドメインと関連付けられたことを [IM and Presence の管理 (IM and Presence Administration)] で確認できますが、着信 ACL は変更したり削除したりすることはできません。着信 ACL を削除できるのは、(関連付けられた) フェデレーテッドドメインエントリを削除する場合だけです。

## 手順

- 
- ステップ 1 [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] > [プレゼンス (Presence)] > [ドメイン間フェデレーション (Inter-Domain Federation)] > [SIP フェデレーション (SIP Federation)] の順に選択します。
- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] を選択します。
- ステップ 3 [ドメイン名 (Domain Name)] フィールドにフェデレーテッド ドメイン名を入力します。
- ステップ 4 [説明 (Description)] フィールドにフェデレーテッド ドメインを識別する説明を入力します。
- ステップ 5 [ドメイン間から OCS/Lync (Inter-Domain to OCS/Lync)] を選択します。
- ステップ 6 [ダイレクト フェデレーション (Direct Federation)] をオンにします。
- ステップ 7 [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 8 SIP フェデレーテッド ドメインを追加、編集、削除したら、[Cisco Unified IM and Presence のサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)] で [ツール (Tools)] > [コントロールセンタのネットワーク サービス (Control Center - Network Services)] の順に選択して、Cisco XCP ルータを再起動します。Cisco XCP ルータを再起動すると、IM and Presence 上の XCP サービスもすべて再起動されます。
- 

## Microsoft OCS ドメインとのフェデレーションを行うための TCP によるスタティック ルートの設定

この項では、IM and Presence と Microsoft OCS 間でダイレクト フェデレーションを行うために、TCP を使用してスタティック ルートを設定する方法について説明します。Cisco Adaptive Security Appliance (ASA) や Microsoft アクセス エッジは必要ありません。



注意

---

[ルーティング プロキシの FQDN (Routing Proxy FQDN)] パラメータ値のドメイン部分は、Microsoft OCS ドメインと同じにはできません。[ルーティング プロキシの FQDN (Routing Proxy FQDN)] パラメータを表示または編集するには、[Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] > [システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] の順に選択し、[Cisco SIP Proxy Service] を選択します。

---

## IM and Presence での OCS サーバ用スタティック ルートの設定

IM and Presence をフェデレートしている Microsoft OCS ドメインと交換するときに TCP を使用するよう IM and Presence を設定するには、IM and Presence で、(Microsoft アクセス エッジという外部エッジでなく) OCS サーバをポイントするスタティック ルートを設定する必要があります。

次の各 OCS エンティティについて、個別のスタティック ルートを追加する必要があります。

- OCS/IM and Presence ドメイン
- すべての OCS Enterprise Edition フロントエンドサーバまたは Standard Edition サーバの FQDN
- すべての OCS プールの FQDN (Enterprise Edition のみ)

OCS/IM and Presence ドメインのスタティック ルートは、特定の OCS Enterprise Edition フロントエンドサーバまたは Standard Edition サーバの IP アドレスをポイントする必要があります。必要な場合は、OCS プールの FQDN のスタティック ルートで、そのプール内のフロントエンドサーバをポイントしてください。

ハイアベイラビリティを目的として、次に対し、追加のバックアップスタティック ルートを設定できます。

- OCS/IM and Presence ドメイン
- すべての OCS プールの FQDN (OCS フロントエンドロードバランサをバイパスしている場合は Enterprise Edition のみ)

バックアップ ルートは、優先順位が低く、プライマリスタティック ルートのネクストホップアドレスが到達不可能な場合のみ使用されます。

## 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration) ]>[プレゼンス (Presence) ]>[ルーティング (Routing) ]>[スタティック ルート (Static Routes) ]の順に選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New) ]を選択します。
- ステップ 3** ドメインまたは FQDN が確保されるよう、[宛先パターン (Destination Pattern) ]の値を入力します。次に例を示します。
- ドメインが domaina.com の場合、宛先パターンの値は .com.domaina である必要があります。
  - FQDN が name1.name2.domain.com の場合、宛先パターンの値は .com.domain.name2.name1 である必要があります。
- ステップ 4** その他のパラメータは次のように入力します。
- a) [ネクストホップ (Next Hop) ]の値は OCS の FQDN または IP アドレスです。
  - b) [ネクストホップポート (Next Hop Port) ]番号は **5060** です。
  - c) [ルートタイプ (Route Type) ]の値は **domain** です。
  - d) [プロトコルタイプ (Protocol Type) ]は **TCP** です。
- ステップ 5** [保存 (Save) ]を選択します。
- 

## 次の作業

[OCS でのスタティック ルートの IM and Presence サーバ用設定](#), (4 ページ)。

## OCS でのスタティック ルートの IM and Presence サーバ用設定

アクセス エッジ サーバや Cisco Adaptive Security Appliance (ASA) を使わずに IM and Presence から OCS へのダイレクト フェデレーションを行うには、OCS から IM and Presence へのスタティック ルートを設定する必要があります。

### 手順

- ステップ 1 OCS で、[スタート (Start) ]>[プログラム (Programs) ]>[管理ツール (Administrative Tools) ]>[Microsoft Office Communicator Server 2007] の順にクリックします。
- ステップ 2 フロント エンド サーバを右クリックします。
- ステップ 3 [プロパティ (Properties) ]>[フロント エンドのプロパティ (Front End Properties) ] の順に選択します。
- ステップ 4 [ルーティング (Routing) ] タブをクリックします。
- ステップ 5 [追加 (Add) ] をクリックします。
- ステップ 6 IM and Presence サーバのドメインを入力します。例、「cisco.com」
- ステップ 7 [次ホップ (Next Hop) ] の IP アドレスに IM and Presence の IP を入力します。
- ステップ 8 [トランスポート (Transport) ] の値として TCP を選択します。
- ステップ 9 [ポート (Port) ] の値として 5060 を入力します。
- ステップ 10 [OK] をクリックします。

### 次の作業

[IM and Presence サーバのホスト承認エントリの追加, \(4 ページ\)](#)

## IM and Presence サーバのホスト承認エントリの追加

### 手順

- ステップ 1 OCS で [ホストの承認 (Host Authorization) ] タブをクリックします。
- ステップ 2 次のいずれかの手順を実行します。
  - a) OCS で IP アドレスによって次ホップ (ネクストホップ) のコンピュータを指定するスタティック ルートを設定している場合は、承認されたホストの IP アドレスを入力します。

b) OCS で FQDN によって次ホップ（ネクスト ホップ）のコンピュータを指定するスタティック ルートを設定している場合は、承認されたホストの FQDN を入力します。

- ステップ 3** [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 4** [IP] を選択します。
- ステップ 5** IM and Presence サーバの IP アドレスを入力します。
- ステップ 6** [サーバとして帯域を制限する (Throttle As Server)] をオンにします。
- ステップ 7** [認証済みとして扱う (Treat as Authenticated)] をオンにします。  
(注) [送信のみ (Outbound Only)] はオンにしないでください。
- ステップ 8** [OK] をクリックします。
- 

## OCS サーバでのポート 5060 の有効化

### 手順

---

- ステップ 1** OCS で、[スタート (Start)] > [プログラム (Programs)] > [管理ツール (Administrative Tools)] > [Microsoft Office Communicator Server 2007] の順に選択します。
- ステップ 2** フロントエンドサーバの FQDN を右クリックします。
- ステップ 3** [プロパティ (Properties)] > [フロントエンドのプロパティ (Front End Properties)] の順に選択し、[全般 (General)] タブを選択します。
- ステップ 4** [接続 (Connections)] にポート 5060 がリストされていない場合は、[追加 (Add)] を選択します。
- ステップ 5** ポート 5060 を次のように設定します。
- a) [IP アドレス値 (IP Address Value)] として [すべて (All)] を選択します。
  - b) [ポート値 (Port Value)] として 5060 を入力します。
  - c) [トランスポート値 (Transport Value)] として TCP を選択します。
- ステップ 6** [OK] を選択します。
-

## Microsoft OCS ドメインとのフェデレーションを行うための TLS によるスタティック ルート設定

手順	注意事項
IM and Presence の OCS 用スタティック ルートの設定	<p><a href="#">IM and Presence での OCS サーバ用スタティック ルートの設定, (2 ページ)</a> の手順をガイドとして使用してください。</p> <p>IM and Presence のスタティック ルートを設定する場合、プロトコルタイプ TLS を選択し、スタティック ルートがポート 5061 をポイントすることを確認します。</p>
OCS の IM and Presence 用スタティック ルートの設定	<p><a href="#">OCS でのスタティック ルートの IM and Presence サーバ用設定, (4 ページ)</a> の手順をガイドとして使用してください。</p> <p>OCS のスタティック ルートを設定する場合、プロトコルタイプ TLS を選択し、スタティック ルートがポート 5061 (デフォルトは 5062) をポイントすることを確認します。</p> <p>(注) OCS のスタティック ルートとともに TLS を使用する場合は、IM and Presence サーバの IP アドレスでなく FQDN を指定する必要があります。</p> <p>また、IM and Presence では、OCS に対するピア承認リスナー ポートを 5061 に設定する必要もあります。これを設定するには、[Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] &gt; [システム (System)] &gt; [アプリケーションリスナー (Application Listeners)] の順に選択します。必ずピア承認リスナー ポートを 5061 にします。サーバ承認リスナー ポートは 5062 に設定できます。</p>
IM and Presence FQDN に対するホスト承認エントリの設定	<p><a href="#">IM and Presence サーバのホスト承認エントリの追加, (4 ページ)</a> の手順をガイドとして使用してください。</p>

手順	注意事項
<p>OCS での証明書の設定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CA ルート証明書および OCS 署名証明書を取得するには、次の手順を（アクセス エッジ サーバにでなく）OCS サーバに実行、適用します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ CA 証明書チェーンのダウンロード</li> <li>◦ CA 証明書チェーンのインストール</li> <li>◦ CA サーバへの証明書の要求</li> <li>◦ CA サーバからの証明書のダウンロード</li> </ul> </li> <li>• [OCS フロント エンド サーバのプロパティ（OCS Front End Server Properties）] で、ポート 5061 の OCS に対する TLS リスナーが設定されていることを確認します。（転送には MTLS か TLS を使用できます）。</li> <li>• [OCS フロント エンド サーバのプロパティ（OCS Front End Server Properties）] で、[証明書（Certificates）] タブを選択し、[証明書の選択（Select Certificate）] をクリックして、OCS 署名証明書を選択します。</li> </ul>
<p>FIPS（SSLv3 でなく TLSv1）を使用するよう OCS を設定し、CA ルート証明書をインポートします。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 OCS でローカル セキュリティ設定を表示します。</li> <li>2 コンソールツリーで、[ローカル ポリシー（Local Policies）] を選択します。</li> <li>3 [セキュリティ オプション（Security Options）] を選択します。</li> <li>4 [システム暗号化：暗号化、ハッシュ、署名のための FIPS 準拠アルゴリズムを使う（System Cryptography:Use FIPS Compliant algorithms for encryption, hashing and signing）] をダブルクリックします。</li> <li>5 セキュリティ設定を有効化します。</li> <li>6 [OK] を選択します。  <p>（注） これを有効化するには、OCS を再起動する必要があります。</p> </li> <li>7 IM and Presence 証明書に署名した CA の CA ルート証明書をインポートします。証明書スナップインを使用して、OCS の信頼ストアに CA ルート証明書をインポートします。</li> </ol>

手順	注意事項
IM and Presence での証明書の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>• IM and Presence に、OCS 証明書に署名した CA のルート証明書をアップロードします。次の点に注意してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 証明書は CUP の信頼性証明書としてアップロードします。</li> <li>◦ [ルート証明書 (Root Certificate) ] フィールドは空白のままにします。</li> <li>◦ IM and Presence に証明書をアップロードするためのガイドとして、<a href="#">自己署名証明書の IM and Presence へのインポート</a>の手順を使用します。</li> </ul> </li> <li>• CA が IM and Presence の証明書に署名できるよう、IM and Presence に対する CSR を作成します。証明書に署名できる CA に CSR をアップロードします。</li> <li>• CA 署名証明書と CA ルート証明書を取得したら、それらを IM and Presence にアップロードします。次の点に注意してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ ルート証明書は CUP の信頼性証明書としてアップロードします。</li> <li>◦ IM and Presence の C 署名証明書は CUP の証明書としてアップロードします。ルート証明書の .pem ファイルはルート証明書として指定します。</li> </ul> </li> <li>• OCS サーバに IM and Presence の TLS ピアサブジェクトを追加します。<a href="#">TLS ピアサブジェクトの新規作成</a>の手順に従って、OCS サーバのピアサブジェクトを作成します。OCS サーバの FQDN を使用します。</li> <li>• [選択された TLS ピアサブジェクト (Selected TLS Peer Subjects) ] リストに TLS ピアを追加します。手順<a href="#">選択した TLS ピアサブジェクトリストへの TLS ピアの追加</a>に従って、[選択された TLS ピアサブジェクト (Selected TLS Peer Subjects) ] リストに TLS ピアを追加します。次の点に注意してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ [TLS コンテキスト設定 (TLS Context Configuration) ] で TLS_RSA_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA 暗号が選択されていることを確認します。</li> <li>◦ 必ず空の TLS フラグメントを無効化します。</li> </ul> </li> </ul>



# エンタープライズ内で Microsoft Lync とのドメイン間フェデレーションを行うためのスタティックルート設定



(注) 複数の Lync フロントエンドサーバがある場合に、Microsoft Lync とのドメイン間フェデレーションを行うには、IM and Presence と Microsoft Lync の間で TLS を設定する必要があります。

この手順では、次の設定パラメータを例として使用します。

- IM and Presence サーバの FQDN (IM and Presence ルーティング ノード) : cupservPub.sip.com



(注) FQDN が正しい IP アドレスに解決できることを確認します。

- IM and Presence サーバの IP アドレス (IM and Presence ルーティング ノード) : 10.53.57.10
- IM and Presence サーバの TCP ポート : 5060



(注) この TCP ポートの値は、[Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration) ]>[システム (System) ]>[アプリケーション リスナー (Application Listener) ]>[デフォルトの Cisco SIP プロキシ TCP リスナー (Default Cisco SIP Proxy TCP Listener) ] に設定されている TCP ポート値と一致する必要があります。

- IM and Presence サーバの TLS ポート : 5062



(注) この TLS ポートの値は、[Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration) ]>[システム (System) ]>[アプリケーション リスナー (Application Listener) ]>[デフォルトの Cisco SIP プロキシ TLS リスナー (Default Cisco SIP Proxy TLS Listener) ] - [ピア認証 (Peer Auth) ] に設定されている TCP ポート値と一致する必要があります。

- IM and Presence サーバのドメイン : sip.com
- Lync レジストラ サーバ : lyncserver.lync.net

エンタープライズ内での Microsoft Lync とのドメイン間フェデレーションを行うためのスタティックルートの設定の詳細については、<http://technet.microsoft.com/en-us/library/gg558664.aspx> を参照してください。

手順	手順
<p>TCP/TLS ルートの定義</p> <p>(注) IM and Presence ルーティング ノードへのスタティック ルートのみを作成する必要があります。ご使用の IM and Presence 導入に複数のクラスタがある場合でも、サブスクライバ ノードや クラスタ間ピア ノードへのスタティック ルートを作成する必要はありません。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li data-bbox="638 310 1474 485">Lync Server 管理シェルがインストールされているコンピュータにサインインします。 RTCUniversalServerAdmins グループのメンバか、 <b>New-CsStaticRoute</b> コマンドレットを割り当てたロールベース アクセス コントロール (RBAC) ロールとして、サインインする必要があります。</li> <li data-bbox="638 510 1474 611">[スタート (Start) ]&gt;[すべてのプログラム (All Programs) ]&gt; [Microsoft Lync Server 2010] &gt; [Lync Server 管理シェル (Lync Server Management Shell) ] の順に選択します。</li> <li data-bbox="638 636 1474 867"> <p>TLS の場合は、次のコマンドを入力します。</p> <pre data-bbox="675 695 1312 867"><b>\$tlsRoute = New-CsStaticRoute -TLSSRoute -Destination</b> &lt;FQDN of &lt;IM and Presence routing node&gt; <b>-Port</b> &lt;listening port of &lt;IM and Presence routing node&gt; <b>-usedefaultcertificate \$true -MatchUri</b> &lt;destination domain&gt;</pre> <p>例 :</p> <pre data-bbox="675 940 1442 1035">\$tlsRoute = New-CsStaticRoute -TLSSRoute -Destination cupserverPub.sip.com -Port 5062 -usedefaultcertificate \$true -MatchUri sip.com</pre> <p>(注) MatchUri パラメータでドメインの子ドメインを一致対象にするには、ワイルドカード値を指定できます (例、 *.sip.com)。この値は、sip.com のサフィックスで終わるすべてのドメインを一致対象にします。</p> <p>-usedefaultcertificate に false を設定する場合は、TLSCertIssuer パラメータと TLSCertSerialNumber パラメータを指定する必要があります。これらのパラメータには、それぞれ、スタティック ルートで使用される証明書を発行する認証局 (CA) の名前と TLS 証明書のシリアル番号を指定します。これらのパラメータの詳細については、Lync Server 管理シェルで調べてください。</p> </li> <li data-bbox="638 1472 1474 1703"> <p>TCP の場合は、次のコマンドを入力します。</p> <pre data-bbox="675 1535 1409 1703"><b>\$tcpRoute = New-CsStaticRoute -TCPRoute -Destination</b> &lt;IP address or FQDN of IM and Presence routing node&gt; <b>-Port</b> &lt;SIP listening port of IM and Presence routing node&gt; <b>-MatchUri</b> &lt;destination domain&gt;</pre> <p>例 :</p> <pre data-bbox="675 1776 1482 1839">\$tcpRoute = New-CsStaticRoute -TCPRoute -Destination 10.53.57.10 -Port 5060 -usedefaultcertificate \$true -MatchUri *sip.com</pre> </li> </ol>

手順	手順
<p>ルートの保管</p> <p>(注) この手順はルーティングノードの場合のみ必要です。</p>	<p><b>1</b> 新規作成したスタティックルートを中央管理ストアに保管するには、次のいずれかを実行します。</p> <p>TLS の場合 :</p> <pre>Set-CsStaticRoutingConfiguration -Route @{Add=\$tlsRoute}</pre> <p>TCP の場合 :</p> <pre>Set-CsStaticRoutingConfiguration -Route @{Add=\$tcpRoute}</pre> <p><b>2</b> コマンドが成功したことを確認するには、次を入力します。</p> <pre>get-CsStaticRoutingConfiguration</pre>

手順	手順
<p>信頼済みアプリケーションサーバプールの作成</p> <p>(注) IM and Presence ルーティング ノードを含むすべての IM and Presence ノードについて、信頼済みアプリケーションサーバプールを作成する必要があります。</p>	<p>1 次のコマンドを入力して、サイト ID を取得します。</p> <pre>get-cssite</pre> <p>2 TLS の場合は、次のコマンドを入力します。</p> <pre><b>New-CsTrustedApplicationPool -Identity</b> &lt;FQDN of IM and Presence node&gt; <b>[-Registrar</b> &lt;Service ID or FQDN of the next hop&gt;] <b>-Site</b> &lt;Site ID for the site where you want to create the trusted application pool&gt; <b>TreatAsAuthenticated \$true -ThrottleAsServer \$true</b></pre> <p>例 :</p> <pre>New-CsTrustedApplicationPool -Identity cupserverPub.sip.com -Registrar LyncServer.lync.net -Site col -TreatAsAuthenticated \$true -ThrottleAsServer \$true</pre> <p>3 TCP の場合は、次のコマンドを入力します。</p> <pre><b>New-CsTrustedApplicationPool -Identity</b> &lt;IP address of &lt;IM and Presence node&gt; <b>[-Registrar</b> &lt;Service ID or FQDN of the next hop&gt;] <b>-Site</b> &lt;Site ID for the site where you want to create the trusted application pool&gt; <b>TreatAsAuthenticated \$true -ThrottleAsServer \$true</b></pre> <p>例 :</p> <pre>New-CsTrustedApplicationPool -Identity 10.53.57.10 -Registrar LyncServer.lync.net -Site col -TreatAsAuthenticated \$true -ThrottleAsServer \$true</pre>

手順	手順
<p>作成されたプールへのアプリケーションサーバの追加</p> <p>(注) IM and Presence ルーティング ノードを含むすべての IM and Presence ノードについて、作成されたプールにアプリケーションサーバを追加する必要があります。</p>	<p>1 TLS の場合は、次のコマンドを入力します。</p> <pre data-bbox="711 373 1515 520"><b>New-CsTrustedApplication -ApplicationID</b> &lt;application name&gt; &lt;<b>-TrustedApplicationPoolFqdn</b> &lt;FQDN of IM and Presence node&gt; <b>-Port</b>&lt;SIP listening port of IM and Presence node&gt;</pre> <p>例 :</p> <pre data-bbox="711 604 1515 688">New-CsTrustedApplication -ApplicationID cupPub1 -TrustedApplicationPoolFqdn cupserverPub.sip.com -Port 5062</pre> <p>2 TCP の場合は、次のコマンドを入力します。</p> <pre data-bbox="711 783 1515 930"><b>New-CsTrustedApplication -ApplicationID</b> &lt;application name&gt; &lt;<b>-TrustedApplicationPoolFqdn</b> &lt;IP Address of IM and Presence node&gt; <b>-Port</b>&lt;listening port of IM and Presence node&gt; <b>-EnableTcp</b></pre> <p>例 :</p> <pre data-bbox="711 1014 1515 1098">New-CsTrustedApplication -ApplicationID cupPub1 -TrustedApplicationPoolFqdn 10.53.57.10 -Port 5060 -EnableTcp</pre>

エンタープライズ内で Microsoft Lync とのドメイン間フェデレーションを行うためのスタティックルート  
設定

手順	手順
<p>Lync Server リッスンポートの設定</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Lync Server 管理シェルで、次のコマンドを入力して、現在のシステム設定を確認します。  <code>Get-CsRegistrarConfiguration</code></li> <li>2 次のコマンドを入力して、Lync Server のリッスンポートを設定します。  <code>Set-CsRegistrar registrar:&lt;Lync_server_FQDN&gt; -SipServerTcpPort 5060</code></li> <li>3 手順1 の Get コマンドを再入力して、新しいシステム設定を確認します。</li> </ol> <p>Lync Server のリッスンポートの設定に使用するパラメータは、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Set-CsRegistrar</b> : Lync Server のポートを設定する内部コマンド。</li> <li>• <b>registrar:</b> : Lync Server の FQDN。</li> <li>• <b>-SipServerTcpPort</b> : Lync Server の SIP リッスンポート。デフォルト値は通常 5060 です。</li> </ul>
<p>トポロジの有効化</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 トポロジを有効化するには、事前に次を実行しておく必要があります。</li> <li>2 IM and Presence ルーティングノードへの TCP/TLS ルートを定義します。</li> <li>3 IM and Presence ノードへの新しいスタティックルートを保管します。</li> <li>4 すべての IM and Presence ノードについて、信頼済みアプリケーションサーバプールを作成します。</li> <li>5 すべての IM and Presence ノードについて、作成されたプールにアプリケーションサーバを追加します。</li> <li>6 次のコマンドを入力して、トポロジに加えた変更を実装します。  <code>Enable-CsTopology</code></li> </ol>

手順	手順
<p>ゲートウェイの IP アドレスの定義</p> <p>(注) この手順は TCP にのみ適用されます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 トポロジビルダーがインストールされているコンピュータにサインインします。 Domain Admins グループおよび RTCUniversalServerAdmins グループのメンバとしてサインインする必要があります。</li> <li>2 [スタート (Start) ] &gt; [すべてのプログラム (All Programs) ] &gt; [Microsoft Lync Server 2010] &gt; [Lync Server トポロジビルダー (Lync Server Topology Builder) ] の順に選択します。</li> <li>3 既存のトポロジをダウンロードするオプションを選択します。</li> <li>4 [信頼済みアプリケーションサーバ (Trusted applications servers) ] を展開します。</li> <li>5 作成した信頼済みアプリケーションプールを右クリックして、[プロパティの編集 (Edit Properties) ] を選択します。</li> <li>6 [構成データのレプリケーションをこのプールに対して有効化する (Enable replication of configuration data to this pool) ] をオフにします。</li> <li>7 [サービスの使用を、指定したアドレスに制限する (Limit service usage to selected IP addresses) ] を選択して、それを必ず [すべての構成済み IP アドレスを使用する (Use all configured IP addresses) ] に設定します。</li> <li>8 [プライマリ IP アドレス (Primary IP address) ] フィールドに SIP ゲートウェイの IP アドレスを入力します。</li> <li>9 中央管理ストアのトポロジを更新するには、コンソールツリーで、[Lync Server 2010] を選択し、[操作 (Actions) ] ペインで、[公開 (Publish) ] を選択します。</li> </ol>

■ エンタープライズ内で **Microsoft Lync** とのドメイン間フェデレーションを行うためのスタティックルート  
設定